

これ迄問合せが多かった内容をよくある質問としてまとめました。ソフト内容のうちデータの多いのがQ08とQ09です。設計基準をお持ちの方は何ページによりますと説明すれば問題ないのですが、お持ちでない方のために設計基準のデータを抜粋して表形式等でまとめましたので参考にして下さい。e c o 労師は設計基準のデータと式を組んで作成しています。

Q 0 1 パソコンを新しく買い替える予定ですが問題はありませんか？

A 0 1 問題ありません。Windows10、Excel2019 迄は検証済みです。

Q 0 2 エクセル 2010 以降は 32bit 版と 64bit 版のどちらをインストールした方がよろしいか？

A 0 2 32bit 版を推奨します。OS は 64bit の場合エクセルは 32bit と 64bit を選択するようになっています。64bit 版は 2G 以上のファイルを扱う場合だけのようです。それ以外は処理速度は変わりません。いづれにしても USB だけ持っていればどのパソコンでも計算できるようしております。

Q 0 3 USB は常時差し込んだままにしておくのと支障がありますか？

A 0 3 使用時のみ差し込みとして下さい。差し込んだままですと稀に他の情報が混入して正常に作動しない場合があります。

Q 0 4 客先に提出する場合の注意点は？

A 0 4 必ず PDF で提出して下さい。エクセルを用意しているのは会社名を入れたいとに対応するためです。エクセルの書式だけでも大変貴重な財産ですので安易に外部への流出は止めて下さい。客先提出は PDF で十分です。

- Q 0 5 複数本購入したい（している）が USB の互換性はないのですか？
- A 0 5 これ迄の USB は固有のもので互換性はありませんでしたが電気設備計算ソフト 2016 から互換性があるように改良しました。  
今回の 2019 も 2016 と同様です。
- Q 0 6 事務所移転等で住所、メールアドレスを変更した場合の手続きの方法？
- A 0 6 （一社）日本設備設計事務所協会連合会のホームページ（お客様サポート）に必要な事項をご記入の上、下段のお問合せ内容に「変更しました」とメール送信して下さい。
- Q 0 7 パソコンを新しく買い替えたらソフトが立ち上がらなくなった。対処方法は？
- A 0 7 エクセルのマクロを有効にする方法についてはガイドブック最初のページを参考にして下さい。
- Q 0 8 動力設備負荷表での質問。  
（1）定格出力を入力しても電流値が自動入力されるものと、されない場合がある。また自動入力される数値は何を引用しているのですか？

A08 (1) 入力例ガイドブックで説明していますが表にない数値を入力すると電流の欄に手入力と表示されますが逆に表にあるものは何を参考にしたデータですか？との質問がありますので表を添付しておきますので参考にして下さい。

**参考資料 (H30 年版 設計基準 P64～P67 より抜粋)**

電動機等の負荷容量は、次により算出する。ただし、電動機等の定格電流が不明な場合は、表2-2から表2-8より選定する。

$$\text{負荷容量 [kVA]} = \sqrt{3} \cdot V \cdot I \quad ※\sqrt{3} = 1.732$$

ここに、V: 電圧[V]

I: 定格電流[A]

表2-2 標準電動機の負荷容量(参考値)

定格出力 [kW]	200V		400V	
	定格電流[A]	負荷容量[kVA]	定格電流[A]	負荷容量[kVA]
0.2	1.8	0.63	0.9	0.63
0.4	3.2	1.11	1.6	1.11
0.75	4.6	1.60	2.3	1.60
1.5	8.0	2.78	4.0	2.78
2.2	11.1	3.85	5.5	3.82
3.7	16.8	5.82	8.4	5.82
5.5	24.6	8.53	12.3	8.53
7.5	34	11.8	17	11.8
11	48	16.7	24	16.7
15	64	22.2	32	22.2
18.5	79	27.4	39.5	27.4
22	92	31.9	46	31.9
30	124	43.0	62	43.0
37	152	52.7	76	52.7
45	190	65.9	95	65.9
55	228	79.0	114	79.0
75	—	—	155	108
90	—	—	180	125
110	—	—	220	153

表2-3 電動機(可変速運転)の負荷容量(参考値)

定格出力 [kW]	200V		400V	
	インバータ入力 電流[A]	負荷容量 [kVA]	インバータ入力 電流[A]	負荷容量 [kVA]
0.2	—	—	—	—
0.4	2.3	0.81	1.1	0.79
0.75	3.3	1.15	1.6	1.12
1.5	6.1	2.11	3.0	2.07
2.2	8.6	2.99	4.3	2.96
3.7	14.0	4.85	7.0	4.82
5.5	20.5	7.11	10.2	7.07
7.5	27.4	9.50	13.7	9.50
11	39.6	13.8	19.7	13.7
15	53.2	18.5	26.6	18.5
18.5	64.9	22.5	32.3	22.4
22	76.8	26.7	38.0	26.4
30	104	36.1	51.4	35.7
37	128	44.4	63.2	43.8
45	155	53.7	76.5	53.1
55	188	65.2	93.1	64.6
75	—	—	127	88.0
90	—	—	—	—
110	—	—	—	—

備考 インバータ入力電流の算出は、次による。

- ①インバータ入力電流は、電動機定格容量÷電動機効率÷インバータ効率÷ $(\sqrt{3} \times \text{三相入力電圧} \times \text{入力総合力率})$ で算出した。
- ②インバータ効率は、インバータ出力÷インバータ入力(インバータ出力+インバータ損失)で算出した。
- ③インバータ出力は、電動機定格容量÷電動機効率で算出した。
- ④インバータ損失は、インバータ定格電流出力時の損失
- ⑤入力総合力率は、0.94とした。

表2-4 永久磁石同期電動機の負荷容量(参考値)

定格出力 [kW]	200V		400V	
	インバータ入力 電流[A]	負荷容量 [kVA]	インバータ入力 電流[A]	負荷容量 [kVA]
0.2	—	—	—	—
0.4	1.5	0.54	0.8	0.54
0.75	2.9	1.01	1.4	1.01
1.5	5.4	1.89	2.7	1.89
2.2	7.9	2.75	3.8	2.66
3.7	13.1	4.55	6.5	4.49
5.5	19.7	6.82	9.7	6.73
7.5	26.6	9.23	13.2	9.14
11	38.7	13.5	19.2	13.4
15	52.5	18.2	26.0	18.1
18.5	63.4	22.0	31.4	21.8
22	76.5	26.6	38.0	26.3
30	104	36.1	51.5	35.7
37	128	44.4	63.2	43.9
45	154	53.4	76.0	52.7
55	187	64.8	92.5	64.1
75	—	—	125	86.7
90	—	—	150	104
110	—	—	183	127

備考 インバータ入力電流の算出は、次による。

- ①インバータ入力電流は、電動機定格容量÷電動機効率÷インバータ効率÷ $(\sqrt{3} \times \text{三相入力電圧} \times \text{入力総合力率})$ で算出した。
- ②電動機定格容量及び効率は、調査値による。
- ③インバータ効率は、インバータ出力÷インバータ入力(インバータ出力+インバータ損失)で算出した。
- ④インバータ出力は、電動機定格容量÷電動機効率で算出した。
- ⑤インバータ損失は、インバータ定格電流出力時の損失
- ⑥入力総合力率は、0.94とした。

表2-5 交流エレベーター(インバータ制御方式)の負荷容量(参考値)

電動機出力 [kW]	負荷容量[kVA]		
	1台1回線	2台1回線	3台1回線
2.7	4	7.5	11
3.7	5	10	13
4.5	6	11	16
5.5	7	13	18
7.5	8.5	16	22
9.5	10	19	26
11	11	20	29
13	13	24	34
15	15	28	39
18.5	19	35	49

備考 負荷容量は、調査値を示す。

表2-6 小荷物専用昇降機の負荷容量(参考値)

電動機出力 [kW]	負荷容量[kVA]
0.4	1.5
0.75	2.0
1.5	3.0
2.2	4.2
3.7	7.0

備考 負荷容量は、調査値を示す。

表2-7 エスカレーターの負荷容量(参考値)

電動機出力 [kW]	負荷容量[kVA]
3.7	6.6
5.5	10.0
7.5	13.0
11	18.0

備考 (1)負荷容量は、調査値を示す。

(2)表中の値は、階高6.5m以内のものを示す。

(3)表中の値は、照明負荷などは含まない値とする。

表2-8 高圧電動機の負荷容量(参考値)

定格出力 [kW]	極数	定格電流[A]	負荷容量 [kVA]
75	8	11.2	128.0
100	8	14.3	163.5
150	8	20.7	236.6
200	10	28.5	325.8
300	10	41.5	474.4
400	12	57.2	653.9

備考 定格電流については、調査値を示す。



## 参考資料 (H30年版 設計基準 P103 より抜粋)

幹線の電圧降下の算出は、次による。

$$e = \frac{KIIZ}{1,000} = \frac{KI(I(R\cos\theta + X\sin\theta))}{1,000}$$

$$Z = R\cos\theta + X\sin\theta$$

ここに、e：各線間の電圧降下[V]

K：電氣方式による係数(表4-3による。)

I：電流[A]

l：こう長[m]

R：電線1kmあたりの交流導体抵抗[Ω/km](表4-4(a)から表4-4(g)による。)

X：電線1kmあたりのリアクタンス[Ω/km]

Z：電線1kmあたりのインピーダンス[Ω/km]

cosθ：力率

力率が不明な場合は、表4-2による。

表4-2 負荷の力率

負荷の種類	力率
電灯(コンセント含む)	0.95
制御盤内コンデンサあり	0.90
低圧電動機 制御盤内コンデンサなし	0.80

$$\sin\theta = \sqrt{1 - \cos^2\theta}$$

表4-3 K：電氣方式による係数

回路の電氣方式	係数
单相2線式	2
三相3線式	$\sqrt{3}$
单相3線式、三相4線式	1

表2-11(a) EM-E(3本)のインピーダンス

導体 [mm]	周波数 50Hz				周波数 60Hz			
	リアクタンス X [Ω/km]		インピーダンス Z [Ω/km]		リアクタンス X [Ω/km]		インピーダンス Z [Ω/km]	
	力率 0.95 sinθ 0.312	力率 0.9 sinθ 0.436	力率 0.8 sinθ 0.6	力率 0.9 sinθ 0.436	力率 0.95 sinθ 0.312	力率 0.9 sinθ 0.436	力率 0.8 sinθ 0.6	力率 0.95 sinθ 0.312
交流導 体抵抗 R [Ω/km] (75℃)	10.8000	10.3000	9.780	8.720	10.400	9.790	8.730	
2	6.8700	6.570	6.240	5.570	6.570	6.250	5.580	
2	11.2000	10.700	10.200	9.030	10.700	10.200	9.050	
3.5	6.3200	6.040	5.740	5.120	6.050	5.750	5.140	
5.5	4.0500	3.890	3.700	3.310	3.890	3.710	3.320	
8	2.8100	2.710	2.580	2.310	2.710	2.590	2.330	
14	1.5800	1.540	1.470	1.330	1.540	1.480	1.340	
22	1.0000	0.949	0.942	0.857	0.949	0.950	0.869	
38	0.5930	0.592	0.574	0.529	0.598	0.582	0.540	
60	0.3690	0.379	0.372	0.350	0.385	0.380	0.360	
100	0.2200	0.238	0.238	0.231	0.244	0.246	0.242	
150	0.1450	0.166	0.166	0.169	0.172	0.178	0.180	
200	0.1140	0.137	0.137	0.142	0.143	0.151	0.157	
250	0.0905	0.114	0.114	0.125	0.125	0.129	0.137	
325	0.0722	0.0859	0.096	0.103	0.110	0.112	0.121	
	0.1460	0.1736	0.1736	0.178	0.180	0.180	0.180	

備考 (1) (社)日本電線工業会 技資103号A「低圧電線・ケーブルのインピーダンス」より抜粋

(2) 交流導体抵抗で殺書きのものは上段50Hz、下段60Hzの値とする。

表2-11(c) EM-CE(2C及び3C)のインピーダンス

導体 [mm2]	周波数 50Hz				周波数 60Hz			
	リアクタンス X [Ω/km]		インピーダンス Z [Ω/km]		リアクタンス X [Ω/km]		インピーダンス Z [Ω/km]	
	力率 0.95 sinθ 0.312	力率 0.9 sinθ 0.436	力率 0.8 sinθ 0.6	力率 0.95 sinθ 0.312	力率 0.9 sinθ 0.436	力率 0.8 sinθ 0.6	力率 0.95 sinθ 0.312	力率 0.9 sinθ 0.436
交流導 体抵抗 R [Ω/km] (90℃)	12.0000	11.4000	10.800	9.660	11.400	10.900	10.900	9.670
3.5	6.7600	6.450	6.120	5.460	6.450	6.130	5.470	
5.5	4.3400	4.150	3.950	3.530	4.150	3.950	3.540	
8	2.9800	2.860	2.720	2.440	2.860	2.730	2.450	
14	1.7100	1.650	1.580	1.420	1.650	1.580	1.430	
22	1.0800	1.050	1.010	0.913	1.050	1.010	0.923	
38	0.6260	0.619	0.597	0.547	0.619	0.597	0.565	
60	0.3970	0.401	0.391	0.364	0.406	0.397	0.373	
100	0.2390	0.251	0.249	0.238	0.256	0.256	0.248	
150	0.1600	0.175	0.176	0.173	0.180	0.183	0.182	
200	0.1210	0.139	0.142	0.142	0.144	0.149	0.152	
250	0.0985	0.117	0.121	0.123	0.128	0.128	0.133	
325	0.0770	0.096	0.101	0.105	0.108	0.108	0.115	
	0.0783	0.096	0.101	0.105	0.108	0.108	0.115	

備考 (1) (社)日本電線工業会 技資103号A「低圧電線・ケーブルのインピーダンス」より抜粋

(2) 交流導体抵抗で殺書きのものは上段50Hz、下段60Hzの値とする。

表2-11(b) EM-EEFのインピーダンス

心線数	導体 [mm]	周波数 50Hz				周波数 60Hz			
		リアクタンス X [Ω/km]		インピーダンス Z [Ω/km]		リアクタンス X [Ω/km]		インピーダンス Z [Ω/km]	
		力率 0.95 sinθ 0.312	力率 0.9 sinθ 0.436	力率 0.8 sinθ 0.6	力率 0.95 sinθ 0.312	力率 0.95 sinθ 0.312	力率 0.95 sinθ 0.312	力率 0.95 sinθ 0.312	力率 0.95 sinθ 0.312
2C	1.6	10.8000	10.3000	9.780	8.720	10.300	9.790	8.730	
	2.0	6.8700	6.5700	6.240	5.570	6.570	6.250	5.580	
3C	1.6	10.8000	10.3000	9.780	8.720	10.300	9.790	8.730	
	2.0	6.8700	6.5700	6.240	5.570	6.570	6.250	5.580	

備考 (社)日本電線工業会 技資103号A「低圧電線・ケーブルのインピーダンス」より抜粋

表2-11(d) EM-CETのインピーダンス

導体 [mm <sup>2</sup> ]	交流導 体抵抗 R [Ω/km] (90°C)	周波数 50Hz						周波数 60Hz						
		リアク タンス X [Ω/km]		インピー ダンス Z [Ω/km]		リアク タンス X [Ω/km]		インピー ダンス Z [Ω/km]		リアク タンス X [Ω/km]		インピー ダンス Z [Ω/km]		
		力率 0.95	力率 0.9	力率 0.95	力率 0.9	力率 0.95	力率 0.9	力率 0.95	力率 0.9	力率 0.95	力率 0.9	力率 0.8	力率 0.8	
14	1.7100	0.1070	1.590	1.430	1.280	1.660	1.590	1.440	0.312	0.436	0.6	0.312	0.436	0.6
22	1.0800	0.1030	1.060	1.020	0.926	1.060	1.030	0.938	0.312	0.436	0.6	0.312	0.436	0.6
38	0.6260	0.0955	0.624	0.605	0.558	0.631	0.614	0.570	0.312	0.436	0.6	0.312	0.436	0.6
60	0.3970	0.0913	0.406	0.387	0.372	0.411	0.405	0.384	0.312	0.436	0.6	0.312	0.436	0.6
100	0.2390	0.0881	0.255	0.254	0.244	0.260	0.261	0.255	0.312	0.436	0.6	0.312	0.436	0.6
150	0.1590	0.0846	0.177	0.180	0.178	0.184	0.188	0.189	0.312	0.436	0.6	0.312	0.436	0.6
200	0.1210	0.0859	0.142	0.146	0.148	0.147	0.154	0.159	0.312	0.436	0.6	0.312	0.436	0.6
250	0.0981	0.0836	0.119	0.125	0.129	0.125	0.133	0.139	0.312	0.436	0.6	0.312	0.436	0.6
325	0.0784	0.0816	0.099	0.104	0.110	0.0980	0.112	0.120	0.312	0.436	0.6	0.312	0.436	0.6

備考 (1) (社)日本電線工業会 投資103号A「低圧電線・ケーブルのインピーダンス」より抜粋

(2) 交流導体抵抗で段書きのものは上段50Hz、下段60Hzの値とする。

表2-11(e) EM-FP-C(平行)のインピーダンス

心線数	導体 [mm]	交流導 体抵抗 R [Ω/km] (75°C)	周波数 50Hz			周波数 60Hz		
			リアク タンス X [Ω/km]	インピー ダンス Z [Ω/km]	リアク タンス X [Ω/km]	インピー ダンス Z [Ω/km]		
			力率 0.95	力率 0.95	力率 0.95	力率 0.95		
2C	[mm]	10.8000	0.1230	10.300	0.1470	10.400		
	1.6	6.8700	0.1060	6.560	0.1270	6.570		
	2.0							
	[mm <sup>2</sup> ]	11.2000	0.1180	10.700	0.1420	10.700		
	3.5	6.3200	0.1040	6.040	0.1250	6.050		
3C	[mm]	4.0500	0.1020	3.880	0.1220	3.890		
	1.6	10.8000	0.1370	10.400	0.1650	10.400		
	2.0	6.8700	0.1200	6.570	0.1440	6.580		
	[mm <sup>2</sup> ]	11.2000	0.1330	10.700	0.1590	10.700		
	3.5	6.3200	0.1190	6.050	0.1420	6.050		

備考 (社)日本電線工業会 投資103号A「低圧電線・ケーブルのインピーダンス」より抜粋

表2-11(f) EM-FP-C(2C及び3C)のインピーダンス

導体 [mm <sup>2</sup> ]	交流導 体抵抗 R [Ω/km] (75°C)	周波数 50Hz						周波数 60Hz						
		リアク タンス X [Ω/km]		インピー ダンス Z [Ω/km]		リアク タンス X [Ω/km]		インピー ダンス Z [Ω/km]		リアク タンス X [Ω/km]		インピー ダンス Z [Ω/km]		
		力率 0.95	力率 0.9	力率 0.95	力率 0.9	力率 0.95	力率 0.9	力率 0.95	力率 0.9	力率 0.95	力率 0.9	力率 0.8	力率 0.8	
5.5	4.13	0.1030	3.950	3.760	3.360	3.960	3.770	3.370	0.312	0.436	0.6	0.312	0.436	0.6
8	2.8700	0.0974	2.760	2.630	2.360	2.770	2.640	2.370	0.312	0.436	0.6	0.312	0.436	0.6
14	1.6300	0.1270	1.590	1.530	1.390	1.600	1.540	1.400	0.312	0.436	0.6	0.312	0.436	0.6
22	1.0300	0.1210	1.020	0.980	0.897	1.030	0.991	0.912	0.312	0.436	0.6	0.312	0.436	0.6
38	0.5970	0.1120	0.603	0.587	0.545	0.611	0.598	0.560	0.312	0.436	0.6	0.312	0.436	0.6
60	0.3790	0.1080	0.394	0.389	0.368	0.401	0.398	0.382	0.312	0.436	0.6	0.312	0.436	0.6
100	0.2280	0.1050	0.250	0.251	0.246	0.257	0.262	0.259	0.312	0.436	0.6	0.312	0.436	0.6
150	0.1520	0.1010	0.176	0.181	0.183	0.184	0.191	0.196	0.312	0.436	0.6	0.312	0.436	0.6
200	0.1150	0.1010	0.141	0.148	0.153	0.148	0.158	0.166	0.312	0.436	0.6	0.312	0.436	0.6
250	0.0942	0.0991	0.121	0.128	0.135	0.1190	0.128	0.148	0.312	0.436	0.6	0.312	0.436	0.6
325	0.0737	0.0968	0.101	0.109	0.118	0.1160	0.119	0.130	0.312	0.436	0.6	0.312	0.436	0.6

備考 (1) (社)日本電線工業会 投資103号A「低圧電線・ケーブルのインピーダンス」より抜粋

(2) 交流導体抵抗で段書きのものは上段50Hz、下段60Hzの値とする。

表2-11(g) EM-FP-CTのインピーダンス

導体 [mm <sup>2</sup> ]	交流導 体抵抗 R [Ω/km] (75°C)	周波数 50Hz						周波数 60Hz						
		リアク タンス X [Ω/km]		インピー ダンス Z [Ω/km]		リアク タンス X [Ω/km]		インピー ダンス Z [Ω/km]		リアク タンス X [Ω/km]		インピー ダンス Z [Ω/km]		
		力率 0.95	力率 0.9	力率 0.95	力率 0.9	力率 0.95	力率 0.9	力率 0.95	力率 0.9	力率 0.95	力率 0.9	力率 0.8	力率 0.8	
14	1.6300	0.1120	1.560	1.520	1.380	1.600	1.530	1.390	0.312	0.436	0.6	0.312	0.436	0.6
22	1.0300	0.1130	1.020	0.977	0.892	1.020	0.984	0.902	0.312	0.436	0.6	0.312	0.436	0.6
38	0.5970	0.1080	0.601	0.585	0.543	0.606	0.591	0.550	0.312	0.436	0.6	0.312	0.436	0.6
60	0.3790	0.0988	0.391	0.385	0.363	0.401	0.391	0.372	0.312	0.436	0.6	0.312	0.436	0.6
100	0.2280	0.0953	0.247	0.247	0.240	0.251	0.254	0.249	0.312	0.436	0.6	0.312	0.436	0.6
150	0.1520	0.1530	0.0920	0.174	0.177	0.177	0.184	0.186	0.312	0.436	0.6	0.312	0.436	0.6
200	0.1150	0.0876	0.137	0.142	0.145	0.143	0.151	0.156	0.312	0.436	0.6	0.312	0.436	0.6
250	0.0937	0.0873	0.117	0.123	0.128	0.122	0.130	0.137	0.312	0.436	0.6	0.312	0.436	0.6
325	0.0731	0.0853	0.097	0.103	0.110	0.0996	0.102	0.110	0.312	0.436	0.6	0.312	0.436	0.6

備考 (1) (社)日本電線工業会 投資103号A「低圧電線・ケーブルのインピーダンス」より抜粋

(2) 交流導体抵抗で段書きのものは上段50Hz、下段60Hzの値とする。

Q09 (2) 絶縁電線 (IV、IE) の許容電流が内線規程と異なるのはどうしてか？

A09 (2) 入力例ガイドブックで説明していますが内線規程は周囲温度 30°C、設計基準は周囲温度 40°Cです。表と式を添付しておきますので参考にして下さい。

**参考資料 (H27 年版 設計基準 P107 より抜粋) H30 年版 P98 は IV がなくなっていますが現在でも使われています。**

・絶縁電線の許容電流は、次による。また、周囲温度 40°C の場合の EM-IE 及び HIV の許容電流を表 3-4 に示す。

$$\text{絶縁電線の許容電流} = A \cdot k1 \cdot k2$$

ここに、 A: 導体の許容電流[A] (表 3-1 による。)  
 k1: 許容電流補正係数 (表 2-2 による。)  
 k2: 電流減少係数 (表 3-3 による。)

表 2-1 導体の許容電流[A]

導体 許容電流[A]	より線 [mm <sup>2</sup> ]													
	1.6	2	5.5	8	14	22	38	60	100	150	200	250	325	650
27	35	49	61	88	115	162	217	298	395	469	556	650		

備考 (1) 導体は、銅とする。  
 (2) 周囲温度が 30°C の場合の値を示す。

表 2-2 許容電流補正係数(k1)

絶縁電線の種類	許容電流補正係数	
	最高許容温度 [°C]	周囲温度 (θ) 30°C 以下 周囲温度 (θ) 30°C を超える場合
EM-IE、HIV	75	1.22
IV	60	1.00

表 2-3 電流減少係数(k2)

同一管内の電線の本数	3以下	4	5~6	7~15	16~40	41~60	61以上
電流減少係数	0.7	0.63	0.56	0.49	0.43	0.39	0.34

表 2-4 EM-IE 及び HIV の許容電流[A]

導体 [mm]	同一管、線ひ又はダクト内に収める電線の本数						
	3以下	4	5~6	7~15	16~40		
1.6	20	18	16	14	12		
2.0	26	23	21	18	16		
3.5	37	33	29	25	22		
8	46	41	36	32	28		
14	66	59	53	46	40		
22	86	78	69	60	53		
38	122	110	97	85	75		
60	164	147	131	114	100		
100	225	202	180	157	138		
150	288	266	238	209	183		
200	354	319	283	248	217		
250	420	378	336	294	258		
325	491	442	393	344	301		
周囲温度							40°C
最高許容温度							75°C

備考 (1) 中性線、接地線及び制御回路用の電線は本表に算入しない。  
 (2) EM-IE 及び HIV をダクト内に収める場合は、「3以下」を適用する。

Q09 (3) 負荷容量が大きいのでケーブルを2条、3条にする場合の対処方法は？

A09 (3)

※2条、3条とする選択機能はありません。例えば負荷電流が800Aであった場合1条で満足するケーブルはありませんので、400Aで計算し備考欄に2条と記入して下さい。2条、3条に対応するソフト化は簡単ですが、それにより計算書引き様式と同じ書式にならないデメリットが大きいため備考欄に注釈として記入して下さい。計算例を参考にして下さい。